

## (4年)

	今年度の課題	改善策	補充・発展指導計画	年度末評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の習熟具合に個人差が大きい。既習の漢字を使用しない児童が多い。</li> <li>語彙が乏しく、自分の考えを話したり、書いたりして表現することや、文章の読み取りができていない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の漢字テストを反復して行い、習熟を図る。日常的に漢字を使う習慣を付けさせる。</li> <li>朝学習や授業の中での言葉集めを行う。言葉の意味を広く理解できるように、辞書を用いた学習を積み重ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主学習で習った漢字を使った短文作りや、熟語調べなどを行わせる。</li> <li>単元の初めに、出てくる言語の意味調べを行う時間を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の漢字については、ほとんどの児童が定着した。</li> <li>定着していない児童には再テストを行い、補充した。</li> <li>単元初めの意味調べを通して、語彙も増えてきた。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>問いに対して、適切な資料を見付けたり、資料と情報を結び付けたりすることが難しい。</li> <li>取り入れた情報を全て書くことが正解だと考えている児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で資料提示をし、読み取れる事実を確認する。</li> <li>発問に対して、必要な情報の取捨選択ができるようにする。何故その資料が必要だったか理由を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペア・グループ活動を通して、複数の資料から必要なものを選ぶ活動を行う。</li> <li>複数の資料から、自分の考えをまとめるのに必要な情報を選ぶ活動を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペア・グループ活動を取り入れることで、複数の資料から必要なものを選ぶ力について教えあうことができた。</li> <li>思考ツールを取り入れ、自分の考えをまとめることで、まとめを書く力も育ってきた。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章問題で問われていることを、読み取ることができない児童がいる。</li> <li>知識・技能を応用することが難しい。</li> <li>図形の性質についての理解が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かっていること、問われていることに線を引くように指導する。問題文をテープ図や数直線で、かき表す活動をする。</li> <li>算数的な言葉や図など、既習事項を使って考えられるようにする。</li> <li>単元と単元の間、復習プリントを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシックドリルを活用し、基礎・基本の定着を図る。理解が低い単元を重点的に復習する。</li> <li>既習事項を生かした応用問題、難問プリントに取り組みさせる。</li> <li>ステップアップ事業を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシックドリルを活用し、理解が低い単元については補充問題やキュービナを活用して復習した。</li> <li>ステップアップ事業を活用し、基礎・基本の定着につながった。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験をもとに実験結果を予想することが難しい児童がいる。</li> <li>問題を自分事として捉えていないと、考察の書き方がわからないことが原因で、考察を書く段階でのつまずきが見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の始めに体験活動を取り入れ、実験結果を予想させる。</li> <li>問題に対する予想をさせた後に、それが正しいとならどんな結果が出るのかを全体で話し合い、イメージを共有する。考察を書く前に、問題や予想に立ち戻って考える時間を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予想でつまずく児童には、選択肢を与える。</li> <li>考察の書き方の型を示す。</li> <li>考察の根拠が書けているところ、分かったことが書けているところに線を引き、評価を伝えることで児童が振り返りやすいようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予想は、どのようなことをどのように表現するかを、例をあげて明確にすることで、表現することができた。</li> <li>考察は、何について書くのか、どのように表現するのが望ましいかを明確にすることで、表現することができた。</li> <li>自分の考えを、自分の言葉で書く経験を積むことが必要である。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の課題に気付き、どこをどう改善すると良いか、どんな方法で練習すると良いかを考えることが難しい。</li> <li>全体的に運動能力が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの活用を含め、自分の動きや、友達の動きを客観的に見比べる視点を養う。</li> <li>日常的に外遊びを推奨し、体を動かす習慣を身に付けられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良い動き、目指す動きが考えられた児童には、改善するために必要な道具や練習の場についても考えられるように指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チーム練習を通して、必要な練習は何か考えさせ、自分に合った運動を選ぶことができた。</li> <li>ICTを活用し、自分の動きと友達の動きを見て、比べることで自身の課題について振り返ることができた。</li> </ul>